

日本医史学雑誌 第68巻 総目次

原 著

- 熊本藩の医学校と薬園
 ——村井椿寿(琴山)の薬物会をもとに—— …………… 松崎 範子 5
- 古代ギリシア・ローマにおける疾病観の変遷
 ——急性病・慢性病の疾病分類に関する考察—— …………… 福島 正幸 199
- 華岡青洲と父直道の瘍科の師・岩永一族の謎に迫る …………… 今井 秀 307
- 第一次世界大戦下における日本人衛生学者の軍事研究
 ——戸田正三の欧州留学に注目して—— …………… 末永 恵子 326

総 説

- 感染症と医学の歴史 …………… 坂井 建雄 20

研究ノート

- 新出の一枚物の賀川流「死胎凡例八則」について
 ——“華岡青洲編『産科瑣言』諸写本の書誌とその内容の研究”補遺——
 …………… 松木 明知 42
- 合田強の『西洋醫述 卷三』に書かれた図の原典から明らかになった事：
 (2) トーマス・バルトリン篇 …………… 板野 俊文 211
- 空海の医療記述 …………… 戸部 賢, 齋藤 繁 221

随 想

- 医史学と私 …………… 川畷 真人 52
- 医史学と私 …………… 片桐 一男 340
- 医史学と私 …………… 山内 一信 350

ひろば

- 筑後久留米藩主有馬頼咸の最期の病状
 ——平川良栄と高松凌雲と佐藤進が診療—— …………… 中山 茂春 60
- アヴィセンナ Avicenna 『医学典範 Liber canonis』 …………… 坂井 建雄 65
- 正倉院文書の「茶」の字は茶か …………… 梅木 春幸 72
- 『アルティチェラ Articella』 …………… 坂井 建雄 230
- 『神農本草経』の歴史 …………… 真柳 誠 236
- ヴェサリウスとその『ファブリカ』と『エピトメー』 …………… 坂井 建雄 358

資 料

- 関寛斎 関連文書(4) …………… 須永 忠, 齋藤美栄子 76

明治初期岡山の種痘活動（救助種痘）関連の新出史料	松村 紀明	243
崇蘭館往来——宮廷医福井氏の天保年間の記録——	町 泉寿郎	246
翻刻『鍼灸施治姓名録』		
——専門医家中島家の第四世にあたる中島友玄の鍼灸臨床の記録——		
..... ヴィグル・マティアス,	町 泉寿郎	369

記 事

消 息

第34回矢数医史学賞を受賞して	青木 歳幸	394
第34回矢数医史賞受賞をうけて	藤本 大士	395
第28回富士川游学術奨励賞を受賞して	松村 紀明	397

例会案内	94, 275, 398
------	--------------

例会記録	94, 276, 399
------	--------------

例会抄録

歴史学と文学の関連についての一考察	西巻 明彦	95
辛くも戦禍を免れた種痘史料	松村 紀明	96
脳外科医からみたロボトミーの歴史	田中雄一郎	97
明治以降の精神療法界の流れと、その中での戦後の神奈川人脈の活躍について		
——医療人類学的考察を含めて——	澤野 啓一, 針原 伸二	98
本居宣長の医学文書と一字薬名	吉川 澄美	99
朝鮮の医書『東医宝鑑』について	吉村 美香	101
ペラグラ再考——歴史の変遷と課題——	伊藤 泰広	276
我が国の腑分けの歴史と近代整形外科の父・各務文献	今井 秀	278
日本経済の父渋沢栄一の社会事業について	稲松 孝思	279
『感染症と法の社会史』とコロナ禍	西迫 大祐	281
日本の発明？ 母子手帳の開発の歴史	中村 安秀	282
『医学とキリスト教』とこれまで、これからの医学史研究	藤本 大士	284
『洋学史研究事典』と医学史研究	青木 歳幸	285

書 評

関凡祥 編纂『中文医史研究学術成果索引（20世紀初至2019年）』	向 静静	102
青木歳幸, W・ミヒエル 編『天然痘との闘いⅡ【西日本の種痘】』	渡部 幹夫	104
泉 孝英 編『日本近現代医学人名事典 別冊』	瀧澤 利行	105
三舟隆之・馬場 基 編『古代の食を再現する——みえてきた食事と生活習慣病——』		
.....	辰巳 洋	107
丸山裕美子・武 倩 編著『本草和名——影印・翻刻と研究——』	町 泉寿郎	108
丸山マサ美 総監修, 金井一薫・佐々木秀美・平尾眞智子 監修		
『アニメでわかる看護の歴史（DVD）』	川原由佳里	110

香西豊子 監修『ぼくらの感染症サバイバル——病に立ち向かった日本人の奮闘記——』	坂井 建雄	111
服部 瑛 著『古文書から見た幕末のコレラ——コロナ禍に遭遇して——』	木下 浩	286
洋学史学会 監修 青木歳幸, 梅原 亮, 杏澤宣賢, 佐藤賢一, イサベル・田中・ファンダーレン, 松方冬子 編『洋学史研究事典』	渡部 幹夫	288
公益社団法人 日本麻酔科学会 編『麻酔博物館設立10周年記念』.....	土手健太郎	290
田畑正久・桑原正彦・富士川義之・松田正典・佐々木秀美・栗田正弘・ 土屋 久 著『富士川遊の世界——医学史, 医療倫理, そして宗教——』	小山 聡子	291
東京国立博物館 編『日本最古の医学書 国宝「医心方」の世界』.....	小曾戸 洋	293
岸本良彦 訳注『ディオスコリデス 薬物誌』.....	福島 正幸	294
適塾記念会 緒方洪庵全集編集委員会 編『(緒方洪庵全集第五巻) 書状(その二) その他文書(附) 適塾姓名録』.....	町 泉寿郎	296
町泉寿郎 著 『前近代の医家たちとその学び——日本近世医学史論考Ⅰ——』 『幕府医学館と考証医学——日本近世医学史論考Ⅱ——』.....	小曾戸 洋	298
代表編者: 小曾戸洋, 共同編者: 町泉寿郎『杏雨書屋所蔵 医聖像集』	岩間眞知子	399
書籍紹介		
香西豊子 著『種痘という〈衛生〉——近世日本における予防接種の歴史——』	松村 紀明	112
落合知子 編『医歯薬学系博物館事典』.....	渡部 幹夫	113
隈部敏明(文)・梶原明彦(絵) 著『伝染病に挑んだ人々~予防接種秋月物語~』	松村 紀明	300
投稿規定.....	114, 193, 301, 401	
編集後記.....	116, 195, 303, 403	

第123回 日本医史学会総会・学術大会 演題目次

プログラム

特別講演

- 1 医史学からの風
近代医学が歩んできた道——世界の中の日本の医学 坂井 建雄 125
- 2 愛媛からの風

伊子の甲冑の歴史 ——古代から近世に続く多様性と機能——	友澤 明	126
教育講演「臨床からの風」		
1 心臓血管手術からの風 心臓血管外科の進歩	石戸谷 浩	128
2 脳神経外科からの風 脳神経外科の過去・現在・未来 ——本邦における脳神経外科の歩みと今後の動向——	大上 史朗	130
3 放射線科からの風 放射線科画像診断～過去から未来へ	三木 均	131
4 肝臓学からの風 肝臓病の医学史——肝炎ウイルスの拡散と制御——	道堯浩二郎	132
5 感染症からの風 新型コロナウイルス感染症パンデミックと我が国の対応	四宮 博人	133
公開シンポジウム「地方で医史学の花を咲かせよう」		
1 三津同盟と村上玄水	川嶌 真人, 曾我 俊裕	134
2 出雲国の医学	梶谷 光弘	136
3 江戸時代中期の讃岐の蘭方医合田強について	板野 俊文	138
4 革新藩・大洲	坂山 憲史	139
一般演題		
1 麻酔博物館改修事業に携わって	牧野 洋, 土手健太郎	140
2 王立鉱泉水病院の創設と発展	柳澤 波香	141
3 ヴィヴェスによる医学教育論	澤井 直	142
4 「グリソン鞘」と「グリソン被膜」をめぐって	佐藤 裕	143
5 ハンター兄弟による18世紀ロンドンの解剖学私塾 ——イギリス医学教育史の一場面——	土屋江里子, 坂井 建雄	144
6 『グットシュタット報告』を検証する ——1890-91年ドイツの集団的医療技術評価——	月澤美代子	145
7 ペラグラ 第5報 ——James Wood Babcock (1856-1922)の生涯と業績——	伊藤 泰広	146
8 網膜芽細胞腫：診断・治療の歴史 III	柳澤 隆昭	147
9 「沖縄戦とトラウマ」に関する研究史	橋本 明	148
10 優生保護法史におけるいくつかの問題	岡田 靖雄	149
11 日本キリスト教海外医療協力会における女性医師の活動	藤本 大士	150
12 ポリオワクチン緊急輸入が可能になった背景 ——NHK記者, 小児科医, 厚生大臣の役割——	加藤 茂孝	151
13 『耆婆五臓経』の編纂者と立川流との関係	範 駿	152

14	饗庭東庵門下の伝承についての一考察 加畑 聡子, 星野 卓之, 小田口 浩, 花輪 壽彦	153
15	味岡三伯の薬効論 ——後世方派から古方派への史的概観—— 吉川 澄美	154
16	近世日本における医学の「復古」と革新・創成： 古方派「四大家」から 向 静静	155
17	中根東里を佐野に招聘した医師・金束信甫（思順）と その医書について 松木 宣嘉	156
18	近代日本の医療活動の意味 山口 静子	157
19	国勢調査以前におけるわが国の年齢調整死亡率変化の死因構造と 医療・公衆衛生の役割 逢見 憲一	158
20	明朝初期の『回回薬方』編纂に12世紀のペルシア語医学書 『宝庫』が果たした役割 尾崎貴久子	159
21	感染症に対抗する「喫茶養生」実践者の歴史的考察 白井 宗佐	160
22	19世紀後半における漢方医の一考察：温知社を中心に 浅井 皓平	161
23	大正期の歯科教育改革に影響を及ぼした女子学生運動（第1報） 永藤 欣久	162
24	日本赤十字病院の戦前の海外における事業展開と現在（台湾編） 福永 肇	163
25	華岡青洲と父直道の瘍科の師・岩永一族の謎に迫る 今井 秀	164
26	全国の華岡流全身麻酔下の手術件数 土手健太郎, 藤谷 太郎, 矢野 雅起, 高石 和	165
27	呉 秀三はなぜ「乳巖治験録」を改竄し、合成写真を作ったのか 松木 明知	166
28	「解体新書」扉絵を画かせた人物をめぐる 板野 俊文	167
29	医学史的観点から理解する医学用語語源 杉田 克生, 池田黎太郎	168
30	全国諸藩での医学教育機関の拡がり——美濃郡上藩を例に 森永 正文	169
31	熊本藩にみる医学校設立の目的 松崎 範子	170
32	伊藤隼三研究（1） 鳥取市における少年時代および晩年の事跡 竹内 薫	171
33	明治9年新川県の医務取締制度 海原 亮	172
34	東海地方における近代地域医療の形成 ——小寺家文書をてがかりに—— 黒野 伸子, 大友 達也	173
35	『南溟浅井先生口授』と浅井貞庵『傷寒摘句集』の研究 星野 卓之, 小田 口浩, 花輪 壽彦	174
36	富岡鉄斎の医家肖像 岩間真知子	175
37	小酒井不木の『医学上より見たる百年後の人間』（1928年執筆）と現在 渡部 幹夫	176

- 38 森林太郎の『衛生新篇』の病院の項目にみる「看護」と「看護人」
 平尾真智子 177
- 39 東洋史学者・市村瓊次郎宛ての医学者たちの書簡 町 泉寿郎 178
- 40 富士川游『醫術と宗教』とその周辺 土屋 久 179

誌上発表

- 41 正倉院文書の「茶」の字は茶か 梅木 春幸 180
- 42 朝鮮の医書『東医宝鑑』ユネスコ記録遺産登録11周年記念事業
 吉村 美香 181
- 43 中浜東一郎と医術開業試験 秋田 博孝 182
- 44 『長生療養方』と『喫茶養生記』における「桑」関連の比較考察
 小磯まり子 183
- 45 嚴智鍾の台湾血清ワクチン製造所の主要期間の予備調査 容 世明 184
- 46 荻野吟子晩年の開業地事情 小島 光洋 185
- 47 明治12年群馬県邑楽郡川俣村のコレラ騒動について
 ——明治前期のコレラと流言—— 須長 泰一 186
- 48 正法眼蔵にみる大和言葉による身体名称 野田 亨 187
- 49 経脈病証の可能性について 中川 俊之 188